

都市と農村の交流・連携等を促進する企画提案の選定結果をお知らせします。

「社団法人兵庫みどり公社」では、NPO法人等が持つノウハウを活かした都市と農山漁村との交流促進のモデル的な企画提案を募集したところ、兵庫県下のNPO法人等から9企画の御提案をいただきました。

6月24日（水）に開催した「企画選定委員会」において審査の結果、次の6企画が選定され、経費助成をさせていただくことになりました。

提案団体名	企画の名称	内 容
有限会社夢前夢工房 (衣笠愛之)	ヒエ抜き大会	イネの栄養や日差しを奪い、成長を阻害するヒエなどの雑草を取り除く作業を夢工房のスタッフの指導のもとで、約50名のボランティアが5時間程度行います。飲み物には、地元夢前町産のそばを原料としたそば茶、昼食には夢工房の田んぼで収穫された米を使ったカレーライスや米粉を使ったパン、ケーキなどを提供し、地産地消の取り組みを参加者にPRし、都市と農村の交流を深めます。
加古川農業青年クラブ (都倉貴博)	播 MANMA (はりまんま) ~ 支えあおう 味わおう まるごと 東播磨~	<p>①一般消費者50名を広報や直売所でつる。</p> <p>②集落営農組合が取り組んでいるそばの花が咲く9月中旬~下旬にかけて、会場を設置。</p> <p>③東播磨市内のほ場で野菜の収穫体験、加古川市内のほ場見学(畜産農家、野菜農家 2か所)</p> <p>④メイン会場では、農地の多面的機能や農業の重要性などについて説明し、消費者と農業者との交流会を実施。</p> <p>⑤加古川農業青年クラブと東はりま生活研究グループ連絡協議会の活動紹介チラシや冊子を配布し、パネル展示も行う。</p> <p>⑥試食交流会を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の産物を使った加工品の試食 ・農商連携を図り、加古川市内のレストランのオーナーから、加古川和牛、地場産の野菜や魚を使った新メニューを提案し、消費者に対して、地場産の新しい料理の美味しさを味わってもらおう。参加した消費者は、今後どこに行けば購入できるのか、ここで味わった料理が、加古川市内のどこのレストランで味わえるのかなど、知る機会にもなり、広がりをもつ。
川西市 ビスタ生活学校 (木原 恵美子)	直売所見学といちじく狩りと生産者との交流会	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ・ポスター作成。アンケート作成 ・川西市広報誌8月1日号にて10名先着順にて一般市民を募集 ・直売所婦人部の方々と試食料理の打合せ(いちじく・なす・きゅうり・トマト・葉物軟弱野菜や昔よりの野菜・新しい野菜などを使ってレシピ作成。) ・当日 公募一般市民10人、直売所の出荷農家8~10人、JA兵庫六甲センター長、営農指導員2人、ビスタ会員8~14人、消費生活センター所長、総勢35~40人位 ・直売所見学 ・いちじくの栽培等説明

		<ul style="list-style-type: none"> ・いちじく狩り ・消費者と生産者との交流会・試食しながら懇談会 ・アンケート
<p>特定非営利活動法人 消費者協会宝塚 (西田 田鶴子)</p>	<p>食と農の体験教室</p>	<p>宝塚市西谷地区において、さつまいも等の農作物の植え付け、栽培、収穫作業等並びに調理体験等を実施する。また、農業の体験談等を聴取する機会も設け、理解を深める。対象は(宝塚市内の)小・中学生並びに保護者</p>
<p>棚田LOVER's (永管 裕一)</p>	<p>農楽カフェ next～ 実践から挑戦へ～</p>	<p>オーガニック・カフェ&ショップ愛農人という都市住民が集う場で、学者、生活者、生産者を講師として招き、都市住民の参加を広く呼びかけ、「農楽カフェ next～実践から挑戦へ～」という意見交換・交流企画を行う。同企画は、2009年3月から農や食の学習・交流会「農楽カフェ」(参加者各回10名;計60名の実績)を発展させた企画である。単なる講義形式ではなく、事前に講師から議題をいただき、参加者から意見を集め、都市的地域内の農業や農地が持つ多面的機能についての理解を促進する。具体的には、月1回程度夜19時～21時まで行う。(詳細は本冊P70)また、成果をHPや報告集としてまとめ社会に発信し、さらに、姫路市の商店の活性化イベントなどで報告資料配付や展示を行う。</p>
<p>上槻瀬農業生産組合棚 田部会 (代表 三宅 繁一)</p>	<p>棚田収穫祭</p>	<p>農業への理解を深めてもらうため、都市住民を対象に棚田オーナーを募集し、地元農家指導の下、田植え、稲刈り等の農作業を体験してもらう。また、収穫祭と称し参加者自らが収穫したコメの試食や地元で収穫された野菜や三田肉を使用したBBQ、果樹、野菜のもぎとり、もちつき大会などを実施し、都市住民との更なる交流を図る。棚田オーナーの募集を開始してから10年目に当たる今年度は、これまで参加してくださった方も収穫祭に招き、200人規模の交流イベントを計画している。</p>